

根絶を達成した奄美大島マングース防除事業について

石井信夫（東京女子大学）

1. 対象地域と対象種

- ・ 奄美大島（鹿児島県、712km²）
- ・ フイリマングース *Urva auropunctata*（食肉目マングース科）

2. 奄美大島におけるマングース問題の経緯

1979 年頃 名瀬市中北部でハブ駆除を目的として約 30 頭放逐。

1990 年頃 農作物・家禽食害問題化

1991 年 生態系影響の指摘

1993 年度 農作物・家禽食害防止のための有害獣駆除開始（生捕わな、報奨金制度）

1996～1999 年度 環境庁による調査事業：島の 40%に定着、個体数は約 5000～10000 頭、年増加率は 40%、多くの希少在来動物を捕食。

→ 捕獲による個体数低減化・根絶の可能性、放置による希少種絶滅の高い可能性。

2000 年度 環境庁（2001 年から環境省）による駆除事業開始（生捕わな、報奨金制度）

→ 個体数低減化の一方で分布域拡大 → 森林内、低密度地域の捕獲圧不足

→ 常勤従事者の必要性。

2003 年度 常勤従事者による森林内捕獲開始（生捕わな）、有害駆除終了

→ 捕獲努力量の絶対的不足 → 捕殺わな導入 → 混獲死発生 → わなの改良。

2004 年度 外来生物法制定。

2005 年度 外来生物法施行、フイリマングースの特定外来生物指定、「防除実施計画（2005-14 年度）」策定、常勤従事者（バスターズ）チーム結成（報奨金制度終了）

→ 捕獲努力量増大 → 個体数低減、分布域の縮小・断片化

→ 残存個体捕獲技術の必要性。

2007 年度 探索犬育成開始（08 年初捕獲）。

2011 年度 ビンポイント捕獲チーム結成。

2012 年度 「第 2 期防除実施計画（2013-22 年度）」策定。

2017 年度 毒餌の使用。

2018 年度 4 月にオス 1 頭が捕獲（以降、生息確認なし） → 根絶確率推定の必要性。

2024 年度 根絶確率推定値に基づく根絶宣言。

3. 目標（根絶）を実現させたポイント

① 順応的管理：評価に基づく管理手法の継続的改良

- ・ 目標の明確化
- ・ モニタリングの実施とデータの分析・評価（目標に接近していることの確認）
- ・ 防除計画の策定とフェーズ（後述）の認識

② 効果的な捕獲法を含む管理手法の開発と適用

- ・ 捕獲圧空白域を作らない
- ・ 混獲死の許容（捕食影響＞混獲影響）
- ・ 殺処分の許容

③ 体制

- ・ 一つにまとめた組織と決定プロセス
- ・ 問題を理解し使命感をもった人材

④ 十分な予算の確保

⑤ その他

- ・ 比較的限定された管理対象地域
- ・ 早期の対応（早ければ早いほど良い）

4. 外来種個体群の状態と防除対策のフェーズ

フェーズ	個体群	管理目標	対策
I	蔓延期	個体数低減化	効率的捕獲
II	低密度期	超低密度化	捕獲圧増大
III	超低密度期	根絶	残存個体排除